

(様式2)

2022年度 教育活動活性化提案事業 実施結果報告書

2023年 3月31日

福岡女子大学学長 殿

申請者 所属名 言語教育センター  
職名 講師  
氏名 田上 優子

|  |   |                  |  |
|--|---|------------------|--|
| 事業名<br>(テーマ)   | グローバル教育を実生活に直結させるプロジェクト「実感 FWUユニーク2022」<br><input type="checkbox"/> 文理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> リーダーシップ <input checked="" type="checkbox"/> 伝統・歴史・感性 <input type="checkbox"/> その他<br>※いずれかにチェック☑を入れてください。 |                  |  |
| 事業実施者及び<br>事業分担者   | 大瀧 麻耶、金光 真美   | 大学院生及び<br>学外協力者等 |  |
| 活動内容及び成果(必要に応じ資料、写真等を添付すること)   |   |                  |  |
| (活動内容)   |   |                  |  |
| 1)ラーニング・コモンズ、ランゲージ・カフェとの事業連携<br>福岡女子大学のユニークな学生主体の活動である「ランゲージ・カフェ活動」を前年に引き続き活性化させるために、本プロジェクトと連携をはかった。<br>カフェ活動は、LINE公式アカウントの利用によって、学生リーダーたちが、自身で即時的に情報を発信できる仕組みが構築されており、そのことで2021年には様々な活動がオンライン開催できたことから、2022年度もLINE公式アカウント料金を補助した。この公式アカウントは、学生への情報発信の重要な基礎インフラであり、2022年度の登録者数は145名であった。カフェ活動で企画をした各種交流行事やグローバルをテーマとした講座には、諸活動に熱心な学生が集う傾向があることから、LINE(公式アカウント)の導入はランゲージ・カフェに限らず、大学全体の広報ツールとしても機能し、学生への学習支援やキャリア支援に十分に役立てられたといえる。  |   |                  |  |
| 2)英語イベント<br>2022年度もプロジェクトメンバー間で十分な連携をはかり、以下のような英語イベントを開催することができた。<br>①「オンライン自己表現ワークショップ」(6月12日)14名<br>②「英語カフェシンプル英会話」(5月16日、7月11日、9月26日)10名<br>③「自分プロデュースオンライン講座」(2月20日)22名<br>3)TOEIC講座<br>これまでに展開してきたテストのスコアアップに焦点をあてた内容とは異なる以下の講座を開催した。<br>「TOEICテキスト台詞化プロジェクト」(5月31日、6月16日)10名<br>4)教職協働イベント<br>コロナ禍で対面事業の開催に制約が続いたため、2022年度は「対談形式のイベント」、「クラフト製作」、スタッフの英語学習の機会をもつことができなかった。しかしながら、学生向けに案内をした上記①～③及び以下④のオンライン事業に各回で教職員の3～4名の参加が見られた。<br>④「100周年ゴスペルオンラインワークショップ」(2月27日、3月26日) |   |                  |  |
| (成果)   |   |                  |  |
| 1)ラーニング・コモンズ、ランゲージ・カフェとの事業連携<br>2022年度のランゲージ・カフェの活動は、中心となるサポーターが37名により、週当たり50名から80名の参加者による7言語の活動が延べ130回開催された。<br>LINE公式アカウント発信の広報に加え、対面とZoom機能の利用によるハイブリッド形式のワークショップの開催により、海外留学中の学生や卒業生への呼びかけができ、通常のカフェ活動に加えて参加者がより主体的に関わることでできる講座を複数開催することができた。   |   |                  |  |
| 2)英語イベント<br>①はESSサークルに所属する学生からの要望による、オンラインを利用した英語表現の講座であった。Zoom越しに積極的に声を出して、演劇表現を学びながら、英語表現をおこなった。<br>②は卒業生講師を中心とした対面での英語スピーキングレッスンがおこなわれた。まさに学習のロールモデルによる学習支援であり、指導を受けた学生には大きな学習の動機づけがなされた。<br>③は就職活動に着手する3年生の発案で、コロナ禍を経て閉塞的になっている学生が開かれたコミュニケーションを円滑に行うための対話的な講座であった。<br>いずれの企画も広報や開催イベントの司会、運営補助に学生の積極的な関与を促すことができた。行事に関わるこのような体験的な学びにより、行事全体を俯瞰してみる視点も得られたことで、学生にはリーダーシップ育成の観点からも主体的な学びの機会となった。  |   |                  |  |
| 3)TOEIC講座<br>TOEICテストの問題を活用した自学習の集中トレーニングをTOEIC認定講師の指導により実施することで、単なるテスト対策ではなく、主体的な英語の学び方を学生は習得できた。   |   |                  |  |
| 4)教職協働イベント<br>④「100周年ゴスペルオンラインワークショップ」(2月27日、3月26日)30名<br>2023年度に創立100周年を迎える本学のホームカミング・デーに向けて、英語歌唱(ゴスペル、校歌)のオンラインワークショップと歌唱練習を開催。続く4月23日のホームカミング・デーにグランドフィナーレとして最終歌唱のイベント開催を提言し、準備委員会にて了承されたことで、教職員、学生、卒業生の記念行事参加への気運を高めることに寄与した。  |   |                  |  |